

《Ⅲ教育の実施体制》について

【教員組織について】

(1)現在の専任教員数を下表を例にして作成して下さい。

平成 19 年 5 月 1 日現在の専任教員数は下表のとおりである。

学科・専攻名 (専攻科を含む)	専任教員数					設置基準で定める教員数		助手	〔ハ〕	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	〔イ〕	〔ロ〕			
現代ビジネス学科	5	6	1	0	12	7	3	0	0	
英語コミュニケーション学科	6	2	2	0	10	5	3	0	0	
合計	11	8	3	0	22	12	6	0	0	

- 〔注意〕 1. 上表の〔イ〕とは短期大学設置基準（以下「設置基準」という。）第 22 条別表第 1 のイに定める学科の種類に応じて定める専任教員数をいう。
2. 上表の〔ロ〕とは設置基準第 22 条別表第 1 のロに定める短期大学全体の入学定員に応じて定める専任教員数をいう。
3. 上表の助手とは、助手として発令されている教職員をいう。
4. 上表の〔ハ〕とは、助手以外の者で短期大学全体もしくは学科等の教育研究活動に直接従事する教職員（事務職員を除く）をいう。（例えば副手、補助職員、技術職員など）。

(2)短期大学の教員にふさわしい資格と資質の有無については、訪問調査の際に、教員の個人調書（①履歴書、②研究業績書、③担当授業科目名、④その他）を提示していただきます。したがって個人調書をこの報告書に添付する必要はありません。

（参Ⅲ - 1 ①履歴書、②研究業績書、③担当授業科目名）

(3)教員の採用、昇任が適切に行なわれている状況を記述して下さい。その際、選考基準等を示した規程等があれば訪問調査の際にご準備をお願いいたします。

教員の欠員が出た場合はただちに補充するようにしている。教員の採用の際には、「創価女子短期大学教員人事手続規程」第 4 章任用人事による。候補者の推薦があるとき、学長は人事委員会を招集して、一人の候補者に対して 2 名の選考委員を委嘱する。選考委員は速やかに選考を開始して一か月以内に結果を教授会に報告しなければならない。この報告があったときは教授会はつぎの会議に可否を議決する。選考基準については、助教は第 15 条、准教授と教授は創価女子短期大学教員昇進基準による。（参Ⅲ - 2）

教員の昇進の際は、教授は 6 年以上の准教授または助教授の経歴を有し、かつ研究上・教育上顕著な業績を上げた者で、人格のすぐれた者でなければならない。研究では専門分野での著述が求められる。大学での教育経験がない場合は実社会での同等の経験を有する者と認められねばならない。准教授は助教、または講師を 2 年以上経験して研究上・教育上相当な業績を上げた者で、かつ人格者でなければならない。また、大学の教育経験がない場合、実社会での同等の経験を有する者と認められねばならない。（参Ⅲ - 2 昇任基準）

(4) 教員の年齢構成について下表を例に現状を記載してください。

平成 19 年 4 月 1 日現在の教員の年齢構成は下表のとおりである。

教員数	年齢ごとの専任教員数 (助教以上)							助手等の平均年齢	備考
	70 以上	60～69	50～59	40～49	30～39	29 以下	平均年齢		
現代ビジネス学科・12 名	0 名	2 名	5 名	3 名	2 名	0 名	50 歳	—	
英語コミュニケーション学科・11 名	0 名	2 名	6 名	0 名	2 名	0 名	52 歳	—	
割合	0 %	18 %	50 %	14 %	18 %	0 %	51 歳	—	

〔注意〕 1. 上表の助手等とは、助手に加えて助手以外の者で教育研究活動に直接従事する教職員(副手、補助職員、技術職員など)を含む。

(5) 専任教員は、(a) 授業、(b) 研究、(c) 学生指導、(d) その他教育研究上の業務に対して意欲的に取り組んでいるか。また上記 4 つの分野の業務取り組み状況にはどのような傾向があるかを短期大学の責任者 (以下「学長等」という。) が記述して下さい。その際、過去 3 ヶ年 (平成 16 年度～18 年度) 程度の教員の担当コマ数 (担当コマ基準、平均担当コマ数等を含む)、教員の研究業績、教員が参画する学生指導の業務、教員が参画するその他の教育研究上の業務概要を示してください。

(a) 授業の取り組みについて

本学の専任教員の授業担当コマ数は、下の表に示すように、現代ビジネス学科では平均 5.41 コマ、英語コミュニケーション学科では平均 6.41 コマである (いずれも平成 18 年度)。英語コミュニケーション学科では演習科目が多いため、現代ビジネス学科よりも 1 コマ程度多くなっている。個々の教員の担当コマ数は平均化されている。

教員の過去 3 ヶ年の授業担当コマ数

【現代ビジネス学科】(責任担当コマ数原則 4 コマ※役職者等例外あり)(参Ⅲ - 1 ③担当科目)

No	職責 H18.4	氏名	平成 16 年度		平成 17 年度		平成 18 年度	
			前期コマ	後期コマ	前期コマ	後期コマ	前期コマ	後期コマ
1	学長・教授	福島勝彦	0	0	1	0	1	0
2	学科長・教授	金井正	5.25	4.25	5	4	5	4
3	教授	佐久間敬	5	5	5	6	5	6
4	教授	鈴木正敏	6	5	—	—	6	7
5	教授	石井秀明	4.25	4.25	4.25	4.25	4.25	4.25
6	助教授	河口信子	4	5	4	5	4	5
7	助教授	水元昇	6	5	5.25	5.25	6.25	5.25
8	助教授	石井健司	6	7	6	7	—	—
9	助教授	大野智弘	6	7	6	7	6	5
10	助教授	リサ・パリラ	7	10	7	10	8	8
11	助教授	亀田多江	—	—	—	—	7	6
12	講師	キャサリン・カン	8	8	8	8	7	9
※現代ビジネス学科平均			5.23	5.5	5.15	5.65	5.41	5.41

※在外研究等で授業を担当しない場合は、人数から除外。

【英語コミュニケーション学科】(責任担当コマ数4コマ)(参Ⅲ-1③担当科目)

No	職責 H18.4	氏名	平成16年度		平成17年度		平成18年度	
			前期コマ	後期コマ	前期コマ	後期コマ	前期コマ	後期コマ
13	学科長・教授	大谷立美	6.25	6.25	5	5	5	5
14	教授	本城靖久	6	6	6	6	6	6
15	教授	森戸由久	6	6	6	6	6	6
16	教授	高見恭子	7	6	7	6	7	6
17	教授	西本徹	5	7	5	7	5	6
18	教授	楠田直樹	5	5	5	5	5	5
19	教授	三好楠二郎	7.25	7.25	6.25	6.25	7.25	7.25
20	助教授	長島敏子	7	7	7.25	7.25	7.25	7.25
21	助教授	南紀子	8	8	9	8	8	9
22	講師	桜井裕子	6	5	6	6	6	6
23	講師	マイ・カノ	9	9	9	7	8	7
英語コミュニケーション学科平均			6.59	6.59	6.5	6.32	6.41	6.41

個々の教員は、毎学期ごとに行われる授業アンケートに基づき、学生のさまざまな意見や要望を真摯に受け止め、次学期の授業内容の改善に反映させている。また、学期ごとに持ち回りで授業見学会を行い、ファカルティ・ディベロップメントに順ずる授業研究を実施している。(ファカルティ・ディベロップメントに関しては、すでに平成18年度に「創価女子短期大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程」(参Ⅱ-4)を正式に制定した)

ほぼ全員の教員が授業ではコンピュータや画像などの補助手段を用いて、魅力ある講義にするべく、最大の努力をしている。

(b) 研究の取り組みについて

次の一覧に見られるように、3年間における著書・学術論文の刊行状況は若干名を除き、いっそうの努力が求められる。『創価女子短期大学紀要』は原則年2回の発行になっている。

教員の過去3ヶ年(平成16年度～平成18年度)の代表的研究業績

著書【現代ビジネス学科】

著者	著書名	単著 共著	発行所	発行年 月日
鈴木 正敏	現代社会と健康－食生活と運動から考える－	単著	学術図書出版 青山社	2004.8

著書【英語コミュニケーション学科】

著者	著書名	単著 共著	発行所	発行年 月日
三好 楠二郎	Johnson's and Webster's Verbal Examples with Special Reference to Exemplifying Usage in Dictionary Entries	単著	Max Niemeyer Verlag, Tübingen, Germany	2007.2

学術論文【現代ビジネス学科】

著者	論文のテーマ・名称	単著 共著	発行所・発表雑誌等	発行・発表 年月
金井 正	企業の環境情報開示に関する 問題点	単著	創価女子短期大学紀要 第34号	2004. 12
佐久間 敬	「流動性のわな」とクルーグマン・モデル	単著	創価女子短期大学紀要 第34号	2004. 12
水元 昇	「人間主義と企業経営」への一 考察—松下幸之助の人間観と 人間哲学—	単著	創価女子短期大学紀要 第34号	2004. 12
〃	Multinational Enterprise And Humanism—Social contribution and Peace—	単著	The 8th International Conference on Multinational Enterprises (College of Business, Chinese Culture University)	2006. 3
〃	多国籍企業與人本主義—社会 貢献與和平(上記論文の中国語 訳)	単著	第8回 多国籍企業に関 する国際シンポジウム (台湾・中国文化大学)	2006. 3
石井 健司	国際的生産ネットワークの形 成と東アジアの経済発展	単著	創価女子短期大学紀要 第34号	2004. 12
大野 智弘	会計における不動産の分類と 投資不動産の特質	単著	創価女子短期大学紀要 第34号	2004. 12
〃	会計基準の設定主体—IASBの 考察—	単著	氏原茂樹編著「国際財務 会計論」 税務経理協会 (61～72頁)	2005. 3
〃	投資不動産の特質と公正価値 モデル	単著	産業経理Vol. 65, No. 3 (98～108頁)	2005. 10
〃	投資不動産の定義と鑑別	単著	創価女子短期大学紀要 35号 (3～19頁)	2005. 12
〃	公正価値評価の適用範囲の拡 張に関する一考察—投資不動 産への適用について—	単著	財務管理研究17号 (96～ 103頁)	2006. 4

学術論文【英語コミュニケーション学科】

著者	論文のテーマ・名称	単著 共著	発行所・発表雑誌等	発行・発 表年月日
大谷 立美	先制攻撃を意図するブッシュ 政権の核政策	単著	創価女子短期大学紀要 34号	2004. 12
〃	ブッシュ政権とミサイル防衛	単著	創価女子短期大学紀要 35号	2005. 12

本城 靖久	“チャールズ二世をめぐる女たち”	単著	別冊歴史読本「プリンセス・ダイアナと英国王室物語」(P108~115)	2004. 10
〃	エリザベス一世のお気に入りたち	単著	別冊歴史読本「ヨーロッパ 名家と令嬢物語」(P140~147)	2005. 6
森戸 由久	Problematic English Usage	単著	創価女子短期大学紀要 34号	2004. 12
〃	Verbs and the Double Object Construction	単著	創価女子短期大学紀要 35号	2005. 12
〃	New Words and New Expressions	単著	創価女子短期大学紀要 36号	2006. 12
高見 恭子	もう一つの黒人演劇の流れ：草の根演劇運動の今	単著	創価女子短期大学紀要 34号	2004. 12
〃	今日の黒人演劇が目指すもの—過去と未来をつなぐ試みについて	単著	黒人研究No, 74 黒人研究会・創立50周年記念号	2005. 3
楠田 直樹	「フェニキア」語、あるいは「カルタゴ(ポエニ)」語の出所と広域語への変遷	単著	創価女子短期大学紀要 34号	2004. 12
〃	古代英雄叙事詩の世界…ウエルギリウス『アエネイス』を中心にして	単著	創価女子短期大学紀要 35号	2005. 12
〃	アデルペルガ、中世都市サレルノのロンゴバルド王朝の女王の誕生から青春時代にかけて	単著	創価女子短期大学紀要 36号	2006. 12
三好楠二郎	Johnson's and Webster's Verbal Examples for Adjective-preposition Collocations	単著	創価女子短期大学紀要 第34号	2004. 12
〃	Johnson's and Webster's Verbal Examples with Special Reference to Exemplifying Usage in Dictionary Entries	単著	University of Exeter (イギリス)提出 Ph. D. 対象論文	2005. 5
〃	Some Notes on Johnson's usual Practices in Supplying Verbal Examples	単著	創価女子短期大学紀要 36号	2006. 12
長島 敏子	Visiting Concord, Massachusetts: The Home of American Heritage	単著	創価女子短期大学紀要 第34号	2004. 12
〃	Gender Differences in College and Beyond: In the United States from 1970 to 2000	単著	創価女子短期大学紀要 第35号	2005. 12

南 紀子	TOEICスコアから見る大学生の特徴とオンライン単語学習サイトを利用した英語学習	単著	2005年PUUA全国大会第22回パソコン利用技術研究集会講演論文集	2005. 3
〃	TOEICスコアからみる高等教育で学ぶ学生の英語力とリーディングスキルを伸ばす積み上げ型CALL学習	単著	社団法人パーソナルコンピュータユーザ利用技術協会論文誌 Vol. 16, No2	2005. 10
桜井 裕子	カリグラフィー共同体におけるイコニック的表語性—Alphabet導入後の日本語文字体系の言語経済	単著	創価女子短期大学紀要第34号	2004. 12
〃	比喩的レタリングの記憶と運動—文字デザインの自己支持性とメタファー—	単著	創価女子短期大学紀要第36号	2006. 12
マコ・カノ	Cultural Miscommunications and Misunderstandinigs between Japanese and North Americans	単著	創価女子短期大学紀要第34号	2004. 12

口頭発表・講演【現代ビジネス学科】

発表者	テーマ	学会・会場	年月日
鈴木 正敏	日常生活と健康—運動そして食生活—	教育情報衛星通信ネットワーク公開講座 (エルネット「オープンカレッジ」)	2005. 1
〃	Obesity, Underweight and Adiposity of Japanese College Women and Relation to Residence	Society for Nutrition Education 39th Annual Conference (Journal of Nutrition Education and Behavior Vol. 38, Sup. 1, July2006 pp. 128)	2006. 7
水元 昇	創業者と人間・松下幸之助一人を育て人を創る人間リーダーの語らい—	創価大学学生ホール (創価教育研究第4号)	2004. 10 (2005. 3)
大野 智弘	公正価値評価の適用範囲の拡張に関する—考察—投資不動産への適用について—	日本財務管理研究学会第21回全国大会 (於：埼玉大学)	2005. 11
亀田 多江	Co-Developing Model for User Participation in Web Application Development	Proceeding of SoMeT05: New Trends in Software Methodologies, Tools and Techniques, pp. 144-155	2005. 9
〃	能動発信型高齢者見守りネットワークシステムの構築と運用	第23回パソコン利用技術研究集会講演論文集, pp. 63-66 (A4-2)	2006. 3

〃	Towards Developing Adjustable Software: A Case Study with the Lyee Approach	Proceeding of SoMeT05: New Trends in Software Methodologies, Tools and Techniques,	2006. 10
---	---	--	----------

口頭発表・講演【英語コミュニケーション学科】

発表者	テーマ	学会・会場	年月日
高見 恭子	21世紀の黒人研究—日本のアフリカ、アメリカ、カリブ研究の展望	創立50周年記念国際大会のシンポジウムで発表	2004. 6
三好 楠二郎	Thornton's American Glossary reconsidered	The congress Lessicografia delle Lingue Europee	2006. 5

(c) 学生指導について

スチューデントアドバイザーの制度(添Ⅱ - 1)

本学にはスチューデントグループ(SG)とスチューデントアドバイザー(SA)の制度がある。すべての学生はSGに所属し、学生同士の交流や親睦を図ったり、キャンパスライフ向上のため、月1回、スチューデントグループミーティング(SGM)を行っている。各SGには1名ずつ教員のSAを置き、1、2年次を通して建学の精神を学んだり、学習上の相談や学生生活における諸問題に対する助言、卒業後の進路や就職等の相談や助言を行う。また、個人的な問題・悩みなどについても相談にのる。

このスチューデントアドバイザー制度は、本学の人間教育の実践の場として、大変重要である。スチューデントアドバイザーはオフィスアワー等を使用し、徹底した個人指導、グループ指導に力を入れており、学生の側も積極的に教員の指導を受けている。スチューデントアドバイザーの担当表は、次の通りである。

(1年生)

学科	SG	SG人数	SA
現代ビジネス学科	A	45	佐久間 敬
	B	47	石井 健司
	C	47	キャサリン・カノ
	D	48	小林 清子
計		187	

(2年生)

平成19年5月1日

学科	SG	SG人数	SA
現代ビジネス学科	A	52	鈴木 正敏
	B	52	リサ・パリラ
	C	53	水元 昇
	D	51	亀田 多江
計		208	

(1年生)

学科	SG	SG人数	SA
英語コミュニケーション学科	A	39	高見 恭子
	B	38	楠田 直樹
	C	38	マコ・カノ
	D	38	森戸 由久
計		153	

(2年生)

学科	SG	SG人数	SA
英語コミュニケーション学科	A	46	長島 敏子
	B	41	西本 徹
	C	42	南 紀子
	D	44	三好楠二郎
計		173	

(d) その他教育研究上の業務について

本学は平成 17 年度および 18 年度に、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム（特色 GP）」に採択された。17 年度の申請取組みは『学生の資格取得への総合的支援システム』、18 年度の申請取組みは『体験学習を生かした実践的英語教育の取組み』であった。

これらが採択されたのは、取組自体が高く評価されたためであるが、もう一方において、申請業務に携わった教職員のチームワークが優れていたためであった。17 年度は現代ビジネス学科の教員を中心に 7 名のチーム、18 年度は英語コミュニケーション学科の教員を中心に 8 名のチームが編成された。

さらに採択後は、特色 GP の補助事業の立案・実施についても、各チームの教員が積極的に推進役を果たしている。

(6) 助手、副手、補助職員、技術職員等を十分に、あるいは可能な限り配置しているか。また助手等が教育研究活動等において適切に機能しているかを学長等が現状を記述して下さい。

本学では、助手、副手、補助職員、技術職員等は採用していない。それに代る制度として、TA(テクニカルアシスタント)の制度がある。TA は通常ティーチングアシスタントと称されるが、本学ではテクニカルアシスタントと称し、併設の創価大学に編入学した学生を中心に、実習授業等において授業の補助や、採点の補助などを行っている。採用にあたっては、有資格者、上級レベル者等を基準としている。

創価女子短期大学の TA（テクニカルアシスタント）採用実績（過去 3 ヶ年）

	平成 16 年度		平成 17 年度		平成 18 年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
合計	20 名	16 名	20 名	20 名	17 名	20 名

【教育環境について】

(1)校舎・校地一覧表を下の表を例に作成して下さい。

校舎・校地一覧表

平成 19 年 5 月 1 日現在

	収容定員	校舎			校地		
		基準面積	現有面積	差異	基準面積	現有面積	差異
創価女子短期大学	550 名	4150 m ²	11527.44 m ²	+7377.44 m ²	5500 m ²	121155.74 m ²	+115655.74 m ²
合計	550 名	4150 m ²	11527.44 m ²	+7377.44 m ²	5500 m ²	121155.74 m ²	+115655.74 m ²

※基準面積とは設置基準で定める面積とします。

- 〔注意〕 1. この項には図面（全体図、校舎等の位置を示す配置図、校地間の距離・校地間の交通手段等を含む）を準備しておいて下さい。
2. 主要校地については訪問調査の際にご案内いただきます。

(2)校舎について、まず設置基準第 31 条の規定による短期大学全体の基準面積(基準面積を算出する計算式を含む)を示してください。また校舎を法人が設置する他の学校等と共用している場合は、他の学校の校舎の基準面積も記載してください。さらに校舎の配置図、用途(室名)を示した各階の図面を準備しておいて下さい。なお主要校舎については訪問調査の際にご案内いただきます。

- ・創価女子短期大学収容定員 現代ビジネス学科(商業関係).....300 名
英語コミュニケーション学科(文学関係).....250 名
- ・商業関係、文学関係ともに短期大学設置基準別表第三イ、ロにおける基準校舎面積の扱いは同一であるため、
商業関係学科 300 人までの場合の面積(別表第三イ).....2,350 m²
文学関係学科 300 人までの場合の面積(別表第三ロ).....1,800 m²
計4,150 m²
が基準面積となる。

(3) 教育研究に使用する情報機器を設置するパソコン室、マルチメディア室、学内 LAN、LL 教室及び学生自習室の整備状況(機種、台数等を含む)について記述して下さい。またその使用状況(使用頻度等)についても記述して下さい。

パソコン室、マルチメディア室、学内 LAN、LL 教室、学生自習室等整備状況

パソコン室	パソコン室の設置状況は次のとおりである。パソコン室は、授業での使用と授業以外の時間は学生に開放し、自習用として使用している。長期休暇(夏季休暇等)の間も学生は自由に使用することができる。				
	教室名	授業使用 コマ数	コンピ ユータ 設置台数	プ リ ン タ ー 台 数	プ ロ ジ ェ ク タ ー 設 置 台 数
	第 1 コンピ ユータ室 (303 教室)	23 コマ中 4 コマ	COMPAQ T305 KN9Z 41 台	4 台	プ ロ ジ ェ ク タ ー 1 台
	第 2 コンピ ユータ室 (203 教室)	23 コマ中 5 コマ	COMPAQ T305 KN9Z 61 台	4 台	大型液晶モニター 大型 2 台
	第 3 コンピ ユータ室 (202 教室)	23 コマ中 10 コマ	COMPAQ T305 KN9Z 63 台	4 台 (内カラー 1)	プ ロ ジ ェ ク タ ー 1 台
マルチメディア室	マルチメディア室は、101. 102. 103. 200. 201. 204. 400 の 7 教室である。これらの教室では、VHS ビデオ、DVD、LD、書画カメラ、スキャナー、パソコン(LAN に接続)等の使用が可能である。これ以外にもコンピ ユータ室 3 室、CALL 教室、LL 教室にも、マルチメディア設備が設置されている。				
学内 LAN	学内 LAN が敷設されており、パソコン室、マルチメディア室、CALL、LL 教室等からの接続が可能である。また無線 LAN は本学全体をカバーしている。 学生は入学と同時に、全員パスワードと ID を付与され、パソコン室や個人のパソコンを使用してインターネットへの接続が可能である。				
LL 教室	CALL (304) 教室と LL (300) 教室がある。 ・CALL 教室は 58 ブース(パソコン 58 台)が設置され、リスニングや英語通訳法の授業等で使用されている。授業での使用は、23 コマ中 16 コマと使用頻度が高くなっている。授業以外の時間は学生に開放され、eラーニングの教材等を使用し、自習ができるようになっている。プリンター 4 台を設置。 ・また、CALL 教室とは別に、LL 教室を設置している。 30 席で学生の席にコンピ ユータは備えていないが、コンソールにマルチメディア装置が設置されている。学生の自習用としても使用されている。				
学生自習室	学生自習室は AV 自習室として設けている。さらに図書館もしくは、授業で使用していない教室を使用させている。				

(4) 授業用の機器・備品の整備状況及び整備システム(管理の状況、整備計画等を含む)について、その概要を記述して下さい。なお機器・備品の整備状況については訪問調査の際に校舎等をご案内いただく際にご説明いただきます。

①授業用の機器・備品の整備状況及び整備システム

機器・備品名	数量	※保管状況
ソニーカセットコーダーTCM-1390	9台	印刷室
パナソニック MD(カセット)デッキ RX-MDX81	2台	印刷室
パナソニック MD(カセット)デッキ RX-MDX77	1台	印刷室
ソニーCD・Radio カセットコーダーCFD-W57	1台	印刷室
アイワ MD・CD・Radio カセットレコーダーCSD-MD3	1台	印刷室
ソニーハンディカムビデオカメラ CCD-TRV95NTSC	1台	印刷室
スライドプロジェクターCOLOR CABIN II	1台	印刷室
シャープ液晶プロジェクターXG-P25X	1台	印刷室
NEC ハンディプロジェクター VT-48	1台	印刷室
ビデオデッキ及びモニターTV(ワゴン付)	23台	各教室

※教員は、授業の際、必要に応じて印刷室から機器・備品を持参する。印刷室は、事務室の近くであり、機器・備品の管理がしやすく、保管場所として用いている。

②今後の整備計画

- ・マルチメディア教室の書画カメラの解像度が低いため、より解像度の高い書画カメラに更新する。(平成19年度)
- ・マルチメディア教室以外の教室(普通教室、ゼミ教室)での、プロジェクター、パワーポイント使用の要望が出ているため、今後、移動式のマルチメディア装置の購入を計画している。(平成19年度より順次)

(5)校地、校舎の安全性、障害者への対応、運動場、体育館、学生の休息場所等について記述して下さい。訪問調査の際にご案内いただき、ご説明願います。

①校地、校舎の安全性

- ・校地への入口2ヶ所(正門、栄光門)には守衛を配置し、安全に備えている。
- ・前期・後期のガイダンスにおいて、八王子警察署より係員を派遣してもらい、全学防犯・交通安全講習会を行っている。
- ・校舎内の各所(通路、部室、トイレ等)に、非常ボタンを設置し、緊急の場合は、学生がそれを押すことにより、警報が鳴るようなシステムを採用している。
- ・近隣での痴漢等の対策として、職員によるパトロールを行うことがある。

②障害者への対応

- ・校舎内外の段差を解消するため、キャンパス内の歩道、校舎の入口、教室の入口等にスロープを設け、バリアフリー化に心掛けている。
- ・校舎内通路・階段の各所に手すりを設けた。
- ・順次、固定式机・椅子の教室において、車椅子のまま座れるよう、机の位置を移動し、ゆとりを持たせるようにしている。
- ・身障者用のトイレを設置した。
- ・自動扉を設置した。
- ・専用駐車場を設置した。
- ・エレベーターの使用

- ・車椅子の準備

③体育館

体育の授業は、すべて体育館で行われる。運動種目としては、バレーボール、バドミントン、卓球、ドッジボール、ビーチバレーボール等が行われている。

また、体育館は2階に、1000席の観覧席があり、1階にも約1000席の椅子席を設けることも可能である。したがって、体育館は体育の授業だけではなく、学生の各種イベントや講演会等、講堂としての使用も可能である。過去には入学式、卒業式で使用したこともある。

④学生の休息場所

- ・食堂 320席程度のスペースがあり、学生は授業の間の休み時間や授業のない時間は、食堂で休憩することが多い。食事時間以外、学生に食事を提供することはないが、自動販売機があるため、飲食は可能である。また、食堂は学生のクラブや学生会等の打合せで使用することが多いため、団体使用の場合は、申請するようになっている。
- ・保健室 身体的に休息が必要な場合は、保健室を使用させている。ベッド数4で、9:00～17:00まで使用が可能、看護師が1名待機している。
- ・学生相談室 校舎3階の研究室のフロアに設置されているため、静かな環境である。学生が自由に利用できるようになっており、月、火、木の体制で、臨床心理士2名が待機し、カウンセリングを受けることができる。

【図書館・学習資源センター等（以下「図書館等」という。）について】

(1) 図書館等の概要について、全体の配置図、座席数、年間図書館予算、購入図書等選定システム、図書等廃棄システム、司書数、情報化の進捗状況等を含めて記述して下さい。なお図書館等には訪問調査の際にご案内いただきます。

① 図書館の全体の配置図

②本学図書館は、1985年4月に校舎3階の一角にオープンし、1995年4月に増改築を行った。資料の増加に伴い、現在は校舎1階の一部を書庫として使用している。施設・設備の概要は以下の通りである（表1）。なお、授業期間中の月曜から金曜日は9時半～20時まで、土曜日は9時半～12時まで開館をしている。施設・設備は、利用度を考えれば、現在のところ特に大きく改善する必要はないものと思われる。ただし、書架スペースについては、狭隘化が著しく今後何らかの対応策を取る必要がある。

（表1）施設・設備の概要

施設形態	短大校舎3階の一部と、書庫として1階の一部を使用
専有床面積	575.84 m ²
書架棚総延長	2,212.3m
図書収容能力	7.4万冊
閲覧座席数	102席
視聴覚機器	ブース2台（ビデオとDVD視聴可） ブース8台（ビデオ・DVD・MD・CD視聴可） CD専用2台、CDウォークマン *視聴覚機器のブースは図書館、AV自習室で合計10台設置されている。満席の場合は、授業を行っていない時間に限り、第1コンピュータ室でDVDを閲覧できるようになっている。
検索用パソコン	4台

※ 全体の配置図は別紙参照

③資料購入予算

図書館の資料購入予算は、ここ3年間、比較的安定した予算となっている（表2）。学生一人当たりの資料費は17,179円となっており、全国平均（7,040円）を上回っている。当面は、現状予算を確保していきたい。

（表2）過去3年間の年間資料費予算の推移（単位：円）

	2004年度	2005年度	2006年度
図書費	8,300,000	8,300,000	8,300,000
新聞図書費	4,000,000	4,000,000	4,000,000
資料費合計	12,300,000	12,300,000	12,300,000
学生1人当資料費	16,826	17,723	17,179

④資料の選定について

当館の選定方針は、以下のとおりとなっている。

- ア) 図書館用図書は、学生のための授業関連の参考書や学術書、一般教養書を選定する。なお、高度に学術的で利用者が極端に少ないと思われる専門図書は、原則として選定対象外とする。
- イ) 本学の設置学科（現代ビジネス、英語コミュニケーション）に関わる図書を選定する。
- ウ) 女性問題・女性史・ジェンダーに関する図書を選定する。

図書の選定システムは、以下のとおりとなっている。

- ア) 教員は、**授業関連図書**を選定する。

- 1) 学生は、授業関連図書及び教養書等について、購入希望として図書館に提出する。
 2) 図書館員は、シラバス関連の図書、教養書、参考図書及び視聴覚資料を選定する。
 資料の選定方針については、今後規定化をしていきたい。選定システムについては、特に学生からの購入希望図書の促進を図るとともに、促進策としての情報発信等をしていきたい。

⑤除籍・廃棄

図書は、一般的な廃棄基準に則り、資料の除籍を行っている。また、雑誌については、下記保存年限に従って、保存期間を過ぎたものについては、除却している。図書・雑誌とも除籍処理後は、リサイクル資料として、利用者に贈呈している。

雑誌の保存期間、及び廃棄基準

1. 雑誌の刊行形態を一つの判断基準とする（主に和雑誌）

刊行頻度	保存期間
年刊・半年刊・季刊	5年間
隔月刊・月刊・半月刊	3年間
隔週刊・旬刊・週刊・週2回刊	1年間
日刊	半年間

2. 創価女子短期大学の紀要等、本学が刊行する雑誌は永久保存する
 3. 利用者の雑誌利用状況を考慮する (2000年7月11日)

⑥職員の構成

職員は、専任2名、アルバイト2名、計4名となっており、その内、司書有資格は、専任職員2名である。司書の能力向上のために、著作権講習会等の講習会や研修会に極力参加し、知識を深めるよう努力している。

なお、2007年度から本学図書館業務は、創価大学中央図書館が担うこととなった。この枠組み変更は、図書館の電子図書館的機能やサービスの多様化に敏感に対応し、高度化させるためのものである。今後より一層のサービス向上に努めていきたい。

⑦図書館システムの整備

本学図書館は、開学時（1985年）より丸善の図書館システム「CALIS（キャリス）」を導入し、その後バージョンアップを図ることにより、現在では図書・雑誌・会計・閲覧業務のトータルシステムに成長してきた。

OPACは、蔵書検索、データベース連携及び図書の予約、継続、購入希望図書等の申請をオンラインで行えるようになっている。また、携帯電話サービスとして、開館日程、蔵書検索、貸出等の個人状況が確認できるようになっている。

今後は、更に必要とする資料の調達機能を高める仕組みづくりやパスファインダー作成に着手することにより、利用者と資料を結ぶ取り組みを図っていきたい。

(2) 図書館に備えられている蔵書数（和書、洋書、学術雑誌数、AV資料数等）を下表を例に作成して下さい。

①蔵書冊数

現在の蔵書冊数は、和洋合計で82,100冊となっている（表3）。学生一人当たり

にすると、118.3冊であり全国平均（64.7冊）と比べて約2倍となっている。年間受入冊数は、ここ数年約3,000冊となっている。今後の蔵書の収集に当っては、学生の学習や教養を高めることを第一とした蔵書構成を図っていきたい。

（表3）過去3年間の所蔵冊数の推移

	2004年度	2005年度	2006年度
所蔵冊数	81,061	82,100	83,890
和書	71,576	72,318	73,998
洋書	9,485	9,782	9,892
学生1人当冊数	110.9	118.3	117.2

②雑誌・新聞・視聴覚資料

年間受入の雑誌及び新聞のタイトル数は、以下のとおりである（表4）。その内容は、設置学科に関連したもの及び教養を高めるものを中心としている。雑誌及び新聞については、現在のところ整備されているものと思われるが、両資料の特性から考えると、時代に適応したものを絶えず検討していく必要性があると考えられる。

（表4）年間受入学術雑誌・新聞タイトル数

	2004年度	2005年度	2006年度
学術雑誌タイトル数	130 (33)	130 (34)	126 (34)
新聞タイトル数	24 (6)	25 (7)	25 (7)

() 内は、うち洋雑誌・洋新聞のタイトル数

視聴覚資料資料のタイトル数は、以下のとおりである（表5）。各形態とも充実しているものと思われる。なお、視聴覚資料は、学生の学習促進及び教養を高める絶好の資料のため、今後ますます充実を図っていきたい。

（表5）視聴覚資料数（2006年6月現在）

ビデオ	DVD	カセット	CD
3,111	546	751	1,740

(3) 図書館等には学生が利用できる授業に関連する参考図書、その他学生用の一般図書等は整備されているか。また学生の図書館等の利用は活発かを、図書館等の責任者（図書館長等）が現状をどのように捉えているかを記述して下さい。

①学生用の図書の整備

学生用資料は、現在のところ、十分に整備していると判断している。図書の利用制度としては、貸出冊数は、図書・視聴覚資料あわせて10冊。貸出期間は、図書1ヵ月、視聴覚資料（CD・カセットに限定）は、1週間となっている。

②学生の図書館利用状況

資料の利用状況は以下の通りである（表6）。本学の学生1人あたりの貸出冊数（22.7冊）は、全国平均（5.95冊）と比較して極めて多い。また、入館者数等の図

書館利用度も高い（『日本の図書館 統計と名簿 2005』日本図書館協会発行）。全体の館外貸出冊数は減少しているように見えるが、その原因は学生数の減少に起因している。学生数比で言えばむしろ増加している。今後、更に利用増を図る施策を講じていきたい。

なお、当館の大きな目的の一つである活字文化復興に寄与し、また、学生の読書力を強化するため、創価大学と協力して、以下の全学読書運動を実施している。

全学読書運動への取組みについて

創価大学、短期大学内の学生団体（自治会・学友会・短大学生会・学生寮）と図書館の共催により実施。実施要領は、以下の通りである。

- ア) 開催期間は4月～翌年1月
- イ) 応募はインターネット方式
- ウ) 5冊分の感想文提出で図書券（500円）進呈
- エ) 大学祭で表彰

2006年8月31日現在の全体の応募者数は2,058名（全学生数の23.7%）、感想提出数は3,838件となっており、応募者数、感想提出数とも2005年度を大きく上回っている。本運動は、授業理解・教養教育・人格陶冶と読書運動を関連付けて推進しており、大学祭で「読書展」を開催するなど、全国の大学としてもユニークな取組みであり、注目を集めており、今後更に充実を図りたい。

（表6）過去3年間の開館日数、入館者数の推移

	2004年度	2005年度	2006年度
学生数	731	694	716
開館日数	240	241	242
館外貸出冊数	19,382	19,201	18,513
学生	15,973	15,759	14,551
教職員等	3,409	3,442	3,962
学生1人当貸出冊数	21.9	22.7	20.3

※ 学生数は各年5月1日現在

(4) 図書館等からの学内外への情報発信、他の図書館等との連携等、現在の図書館活動について、図書館長等がどのように受け止めているかを記述して下さい。

以下の点について重点的に活動をしている。

①利用者教育

本学の学習・教育をサポートをするため、利用者教育は図書館における重要な課題と捉え取り組んでいる。近年、以下のガイダンスを開催している。

1. 新入生対象の図書館ガイダンス（オリエンテーション内にて実施）全員参加
2. ゼミナール対象ガイダンス
3. 資料検索ガイダンス（個人、グループ単位）

今後は利用者のニーズに合わせ、グループ単位等のガイダンスも開催をしていきたい。また、教育効果を高めるため、FD活動の一環として、教員向けのデータベース講習会も開催していきたい。

②広報

1999年に、本学図書館のホームページを立ち上げ、OPAC検索・利用方法・開館日程等の情報をインターネットで提供できるようになった。2004年に本学のホームページ (<http://swc.soka.ac.jp>) がリニューアルされるのに伴い、図書館のホームページも本学のホームページの一部として統一的なデザイン化がなされた。

今後は、図書館利用案内、各種利用案内のリーフレット等を作成し、さらに図書館が利用しやすくなるよう取り組んでいきたい。

③相互協力について

相互協力に関しては、最も緊急な関係を保つべきは創価大学の図書館であり、そこに蓄積されているノウハウを本学学生が活用できるような取組みを開始していきたい。

なお、学外の短期大学図書館との相互協力については、現在は行っていないが、今後ニーズに応じて検討を開始したい。

【特記事項について】

(1) この《Ⅲ教育の実施体制》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば外国人教員の採用、授業の公開、学習評価活動等、努力していることがあれば記述して下さい。

本学では、専任の外国人講師4名（英語担当）、非常勤講師8名（英語、イタリア語、中国語、韓国語担当）がおり、外国語教育に大きな役割を果たしている。採用に関しては、修士号を取得していることが条件であり、特に英語担当者は、外国人に英語を教える修士学位（TESOL）を求めている。

(2) 特別の事由や事情があり、この《Ⅲ教育の実施体制》の評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

- 〈参考資料〉
1. 教員の個人調書（①履歴書、②研究業績書、③担当授業科目等）
 2. 教員選考基準を示した規程等
 3. 校地、校舎に関する図面
 4. 図書館等の規程